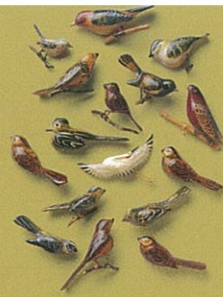


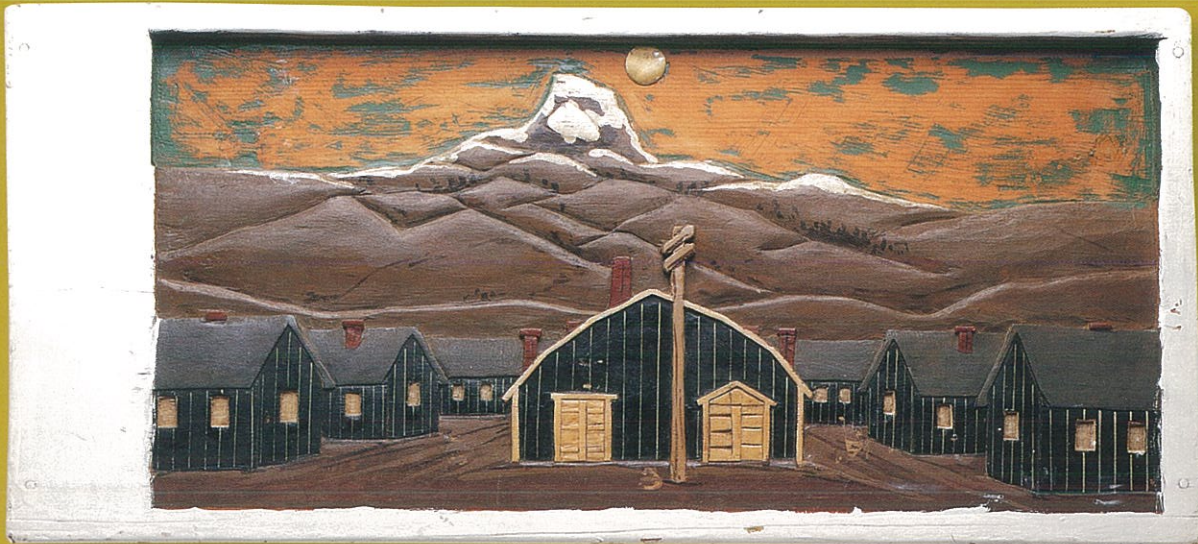


”生きる”
証だった

The Art
of
Gaman



尊厳の芸術展



平成25年 7月20日(土) — 9月1日(日)

●入場無料

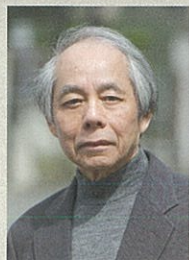
広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22
市内電車「縮景園前」下車 約20m

- 開館時間：午前9時～午後5時 *金曜日は午後8時まで(入館は閉館30分前まで) ●会期中無休
- 主催：広島県立美術館、NHK広島放送局 ●後援：外務省、広島市、広島市教育委員会 ●特別協力：アメリカ大使館
- お問い合わせ：広島県立美術館 電話082-221-6246/FAX082-223-1444 ●NHK広島放送局ホームページ：<http://www.nhk.or.jp/hiroshima/>



左上から、(ハートのピンブローチ)イワ ミウラ/《島のピンブローチ》ヒメコ フクハラ、カズコ マツモト他 / 《取寄所の風景》作者不詳 / 《三段引出》ギイチ キムラ / 《植物のピンブローチ》作者不詳 / 《トゥールレイク取寄所》作者不詳 / 《蛇》タキゾウ オバタ / 《仏壇》キチタロウ カワセ / 《急須》ホウメイ イセヤマ / 《おもちゃの汽車》エドワード ジツエ クルシマ
Photos by Terry Heffernan. Reprinted from "The Art of Gaman: Arts and Crafts from the Japanese American Internment Camps, 1942-1946" by Delphine Hirasuna, Ten Speed Press, c. 2005



昔の日本人が苦難の日々に
どのように耐え、
いかに誇りを失わなかったか。
その見事な証拠が次々と展開する。

脚本家 山田太一



「私はここにいます」、
静かな訴えが作品から聞こえる。
凜とした誇り、
精神の自由に胸を打たれた。

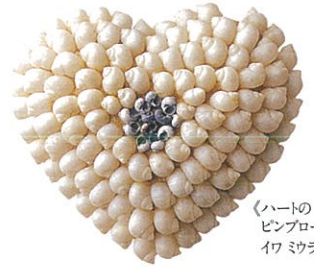
NHK「クローズアップ現代」キャスター 国谷裕子

The Art of Gaman



《鳥のピンブローチ》
作者不詳

尊厳の芸術展



《ハートの
ピンブローチ》
伊ワミツラ

アメリカの Smithsonian アメリア美術館 レンウィックギャラリーで 2010 年に開催された展覧会「The Art of Gaman」は、強制収容所の中で制作された作品を紹介し、アメリカ国内で大きな反響を呼びました。

今から 70 年前のアメリカ西海岸では、それまで普通の市民生活を送っていた日系アメリカ人が、日米の開戦を受けて収容所に隔離され、厳しい生活を強いられました。こうした環境の中で、人々は生活を少しでも豊かにし人間らしく生きるために、拾った石から硯を彫り、植物の繊維で箱を編み、木材から工芸品を刻み、種子や地中から掘り出した貝殻で装飾品を作り上げたのです。粗末な道具と素材だけで工夫されたからこそ、まさに「心のこもった」ものばかりです。物資と情報があふれる今の時代に生きる私たちは、それらの作品から、「ものづくり」の原点を感じ取ることができるでしょう。

2010年11月にNHKが「クローズアップ現代」でこの展覧会を紹介したところ、日本での開催を求める声が多く寄せられました。このたび日系アメリカ人の強制収容から70年を迎えるのに合わせて、全国5会場（東京・福島・仙台・沖縄・広島）で本展を開催し、広島が最後の展示会場となります。



「マンザナー強制収容所の砂嵐」写真：The U.S. National Archives and Records Administration



《そろばん》
ショウヤ サカザキ



《日本人形》
タニ フルハタ



《硯》
ホウメイ イセヤマ



《鶴》
ジツロウ ヒラモト

Photos by Terry Heffernan

Reprinted from "The Art of Gaman: Arts and Crafts from the Japanese American Internment Camps, 1942-1946" by Delphine Hirasuna, Ten Speed Press, c. 2005

関連イベント | 尊厳の芸術展 オープニングフォーラム

70年前の日系アメリカ人たちが、厳しい環境の中でも決して失わなかった“不屈の精神”や“創造性”。
展示作品の詳しい紹介を通じて『“GAMANの芸術”とは何か』を考えます。

●日時：平成25年7月20日（土）開演：午後2時～ ●会場：広島県立美術館 講堂（定員：約200人）

●出演：薩摩雅登（東京藝術大学教授・展覧会監修者）、石内 都（写真家）ほか

※観覧申込方法などの詳細は、NHK広島放送局ホームページ（www.nhk.or.jp/hiroshima/）をご覧ください。